

■分かってくれないと奪い合う人、
分かってあげたいと与え合う人

修正： 2017.09.01

投稿： 2017.09.01



分かってもらおうとする人
分かってあげようとする人

●分かってくれないと奪い合う人、

分かってあげたいと与え合う人①

引っ越しでドタバタしているところです。

ネット環境も整っておらず、不便に感じています…。

//-----

人にはそれぞれ悩みがあります。

同じ屋根の下で暮らす夫婦も、
それぞれ立場はまったく違いますから、
悩みも 180 度異なるものになっていきます。

夫は家の外で仕事し、会社の中で揉まれます。
中間管理職の立場であれば、チームのリーダーとして
成果を上げることが、経営陣から求められていることでしょう。

厳しいノルマを課せられ、目標を達成できなければ、
上司から露骨に無能扱いされるかもしれません。

そんな厳しいノルマですから、
部下にしぶしぶ押し付けざるを得ないわけですが、
そうするとその部下からも嫌な顔をされ、そのうち、

「そのようなリーダーシップしかとれないへボ上司だ！」と、
部下からも影でヒソヒソと無能扱いされかねません。

さらに、他の部署と敵対関係になっていけば、
些細なことで部署同士の争いに発展することもあり、
そうすると、上にも下にも右にも左にも敵しかいないという
四面楚歌な状態に陥ります。

肉体的にも精神的にもヘトヘトになり、

ようやく今日一日も終わり、やっとの思いで家に帰れた、
と思えば、今度は妻から、

「ちょっとあなた聞いてよ～、隣の〇〇さんったらも～」

と愚痴が始まります。

「職場では敵だらけで心休まる暇もない、Y(>_<、)Y

せめて、せめて家庭だけは、

心安らぐ温かな場所であってほしい…(*°-°*)」

と願えど、叶わず、妻からは愚痴を聞かされる。

「うん、うん、(;´Д`)」と生返事で返すのがやっとの夫に対して、

「ちょっと、あなた、本当に聞いているの! (;・`Д・´)」と

妻からイラついた口調で攻められれば、どうなるでしょうか？

(続)

//=====//

●分かってくれないと奪い合う人、

分かってあげたいと与え合う人②

人にはそれぞれ悩みがあります。

同じ屋根の下で暮らす夫婦も、

それぞれ立場はまったく違いますから、

悩みも 180 度異なるものになっていきます。

妻は妻で、夫が朝早く仕事に出かけるのを見送るために、

夫よりも早起きし、夫の身支度を整えなければなりません。

夫を見送れば、次は子供の世話です。

そうして朝食を作り、片付けをし、服を洗濯し、部屋を掃除し、一通りの家事をこなします。落ち着いたところで、冷蔵庫の中身をチェックし、今日の献立を考えます。毎日の献立を考えるのも、意外と労力がかかる仕事です。

親子丼はこの前も作ったしな…、飽きられるかな…、(￣^￣)
だったらカレーにしようかな～、
いや、昨日、シチューだったし、どう思われるかな…、
やっぱりダメか…、(´□`。)

と、だんだん、何を作るか考えることがめんどうになってきます。

気疲れする近所付き合いのこと、子供の教育費のこと、
夫の給料が安く将来が不安なこと、
毎日同じことの繰り返しでつまらないこと、

妻は妻で、家に収まっている者としての悩みがあります。

悩みを聞いてくれる人などそうそうおりませんから、
帰ってきた夫にぜひとも聞いてほしいところですが、夫も夫で、
会社勤めでヘトヘトになっており、真剣に取り合ってくれません。

何を言っても「うん、うん、(;´Д`)」と生返事な夫に対して
だんだんと怒りが込み上げてくるもので、

「ちょっとあなた、本当に聞いているの？」

まったく、あなたったら、ちつとも私の話、聞いてくれないんだから。

ちょっとは家庭のことも考えてよ!(;`д´)」

と、ついイライラが口から出てしまうものです。

(続)

//=====//

●分かってくれないと奪い合う人、

分かってあげたいと与え合う人③

引っ越しが完了し、徐々に落ち着いてきたところです。
ネット回線も開通し、不便さも解消されてきました。
ちょっと虫が多いですけど…。

//-----

人にはそれぞれ悩みがあります。

夫には夫の悩みがあり、妻には妻の悩みがあり、
また、子供には子供の悩みがあります。

夫は、どうすればノルマを達成できるようになるかで悩み、
妻は、専業主婦として今日の献立に悩みます。
そして子供は、クラスメイトとの人間関係に悩みます。

「なあ～、俺はどうやったら成果を上げられると思う？」と
父親が仕事の悩みを働いたこともない子供に相談したところで、
まともな返事など返ってきませんし、

妻が夫に「今晚何を作ろうかで悩んでいるんだけど…(´□`。)」
と相談したところで、

「お前の悩みは小さくていいな～ ㄣ(´へ´) ㄣ」
と軽くあしらわれて終わりです。

「同じクラスの〇〇さんと上手いかないんだけど…」
と子供が親に悩みを相談することもそうそうありません。子供は、
親に相談しても悩みを解決できないことを悟っているからです。

同じ家族であってもそれぞれ立場は違うのですから、

相手の苦しみなど分かるはずもありません。

それに、自分には自分の解決すべき悩みがあるのですから、

他人の悩みを積極的に聞いてあげる余力など、そもそもありません。

「ちょっとあなた、聞いてよ! (;・`Д・´)」

と妻が夫に詰め寄っても、

「ああ～、また今度にしてくれ、今は疲れてるんだ! (;´Д`)」

と逃げられるだけです。

みな、自分のことで精一杯であり、

他人の悩みを共有できるほど心に余力がありません。

それでも「自分のこの苦しみを同じ家族で共有したい!」と願い、

悩みを相談しようとしませんが、そうすればそうするほど、

「自分のこの苦しみは誰にも理解してもらえないのだ…」

と思い知らされることとなります。

(続)

//=====//

●分かってくれないと奪い合う人、

分かってあげたいと与え合う人④

人にはそれぞれ悩みがあります。

夫は職場で揉まれ、妻は近所付き合いに疲れ、

子供はクラスメイトとの人間関係に四苦八苦しします。

同じ屋根の下で暮らす夫婦も、
それぞれ立場はまったく違いますから、
悩みも 180 度異なるものになっていきます。

それでも、夫も妻も子供も、お互いがお互いに対して、
自分が抱え込んでいる「今のこの苦しみ」
を相手に分かってほしいと思うものです。

苦しみを誰かに理解してもらえれば、
それだけ気持ちも楽になりますから、
是非とも、身近な人と苦しみを共有したいと願うものです。

夫からすれば、妻はパートナーなのだから、
「俺が苦しいときは、そばにいて尽くしてほしい、
いや、パートナーなのだから尽くすべきである！」
と思うところですし、逆に、

妻からすれば、夫はパートナーなのだから、
「私が苦しいときは、苦しみを理解してほしい、
いや、パートナーなのだから理解するべきである！」
と思うところでは。

子供からしても、父と母は親なのだから、
「子供である自分が苦しんでいるときは、
親として率先して動いてくれるはずだ！」
と思っています。

しかし実際は、お互いに
相手のことを気にかけている余力はありません。それでも
「理解してくれ～理解してくれ～」と詰め寄ってくるものですから、

夫からして、家に帰れば口うるさいだけの妻、
妻からして、家庭のことなんてこれっぽっちも考えてくれない夫、
子供からして、頭ごなしに否定するだけの親、

と相手が理解してくれないことに**一方的に不満が募るもの**です。

同じ屋根の下で暮らしているながら、お互いに分かり合うことはなく、別々の人生を生きている、というのが実態ではないでしょうか。

(続)

//=====//

●分かってくれないと奪い合う人、

分かってあげたいと与え合う人⑤

人にはそれぞれ悩みがあります。

蒔かぬ種から芽は出ないと言われております。

併せて「悩みの種」という言葉もあります。

悩みの種はそのままにしておけば、やがて悩みの芽を出してしまう、

ということです。そしてこの悩みの種ですが、**人によって実にさまざま**です。

例え同じ屋根の下で暮らす夫婦であっても、

それぞれ立場はまったく違うのですから、

お互いに相手の悩みなど理解できるはずもありません。

同じような立場の者同士であれば通じるものもありますが、

立場が違えば、相手の悩みを理解することなどできません。

例えば、子供は親の気持ちを理解することができませんし、

はたまた、社員は社長の気持ちを理解することができません。

もし簡単に分かり合えるのであれば、

「もうあなたとはやっていけません！」

と離婚することもないでしょう。

離婚した人は、「この人とはどう頑張っても分かり合えない」と悟り、
最善の手として離婚することを選択したのです。

結局のところ、自分を理解できるのは**自分だけ**です。

妻は、夫に頼るよりもまず、過去の行いを反省し、自力で、
妻としての悩みを解決できるよう努力しなければなりませんし、
夫は、妻に頼るよりもまず、過去の行いを反省し、自力で、
夫としての悩みを解決できるよう努力しなければなりません。

たとえ、自分の苦しみを誰かと共有できたとしても、
自分が変わらない限り、またその苦しみはやってくるのですから、
結局は、自ら問題を解決できるようにならなければならないのです。

もし、自分で自分の問題を解決できるようになれば、
相手の悩みに耳を傾ける余力もできるものです。

そうして、相手を理解することに努めれば、
相手からも自然と理解されるようになり、
温かな人間関係を育めるようになります。

というよりも、より正しくは、相手を理解しようとする人の周りには、
同じく相手を理解しようとする人が集まってくるわけであり、
相手に理解してもらおうとするだけの人を簡単に見放すことができます。

**その結果、与える人は与える人と仲良くなり、
与える人と仲良くできなかった奪う人は、
同じく、与える人と仲良くできなかった奪う人と、
お互いに仲良くなって奪い合おうとします。**

こうして与える人はより与えられ(「**与えて与えられる**」の原則)、
奪う人はより奪われていくのです(「**奪って奪われる**」の原則)。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)